

カパー
ロマン

いまでも、脈々と生きる銅の気品

早いもので十年余の米国駐在から帰国し、伸銅業に携わってから六年余が過ぎました。米国駐在中に銅に関心を持つことは殆どありませんでした。先般、日本銅センター広報誌「銅」一五号の中で、自由の女神像に八〇トンもの銅が使われ

ている事実や、**「新発見！アメリカ、ニューヨークそして銅」というタイトルでニューヨーク市の建造物、景観物に銅が如何に多く使われているかを写真入りで説明されている記事を読み、本当に驚きました。ニューヨーク市内（マンハッ**



ニューヨーク、ロックフェラーセンター前には多くの銅製品があふれる

ン島)に五年間もいたのに気がつかないなんて、帰国したいまに思うと誠に惜しい気持ちです。周りの事象に関心を持ち、そしてその関心事をさらに探っていく探求心が如何に歳を重ねるにつれてなくなっていくか愕然としました。好奇心から探求心、そしてさらなる好奇心というサイクルをスムーズにまわすことができる人ほど教養は豊かになるのでしょうか。逆も然りです。ちょうど還暦を迎えた今年から少しはこの「カパーロマン」執



矢野 信治

筆を機会に好奇心豊かな男になりたいものだと希っています。

さて、銅の話ですが、本誌にもありまされた結果、多くの場所に使われたようです。その根底にはやはり金に対する憧れがあったのではないのでしょうか。しかし、金は高価でありとても大量に使えない。銅は金ほどではないが同系統の色をだし、加工もやり易く、盗んでいくほど高価ではない。ということ、長い歴史をへて、銅の使用が定着してきたのではないのでしょうか。今日、銅の需要の大半は導電性、熱伝導性などの特徴をいかした工業分野ですが、小生の仮説が正しいとすれば、金に対する憧れを取り込んだ、工業とはまったく異なる芸術、美術というかそんな分野があり、それが現代でもっとも文明の進んだ都市で脈々と生きているのを見るのは、誠に愉快であります。

社団法人日本銅センター副会長

(株式会社神戸製鋼所 専務執行役員)

銅

第154号

目次

● 巻頭言 2
 いまでも、脈々と生きる銅の気品 矢野信治

● 銅の歴史物語⑫ 3
 一枚板から生まれる伝統銅製品

● 銅と暮らしのロータリー⑭ 4
 海中の開陽丸保存に
 効果を上げる銅ネット

● リレー随想 6
 国東半島ウキ釣り日記 毛利甚八

● ユーザー訪問 8
 銅の魅力が光るアート&リサイクル
 「株クロータニコーポレーション」
 カバードリウム 10
 人々をやさしく包む
 銅のシェルモニメント

● 銅の需給動向 11

● 銅を学ぶ銅話の世界⑫ 12
 私財を守る知恵の結晶 鍵と錠

● 銅センターニュース 14
 ニューストピックス

表紙のことは



世界の大船に使用されているスクリュールの大半が日本製である。素材は海水に

長期間耐えられるタフな素材、銅合金。我が国の誇る高度な造船技術と素材技術が、大海原を駆けめぐっている。